

地球の芽

宅地造成のCO₂相殺

排出枠活用、73区画販売

【大津】宅地開発・販売の地球の芽（滋賀県近江八幡市、秋村昂社長）

は、二酸化炭素（CO₂）排出量ゼロの宅地を売り出した。「カーボンオフセット」の仕組みを活用し、宅地の造成工事で発生したCO₂五百四十三

トを温暖化ガス排出枠で相殺した。費用は約二百万円。

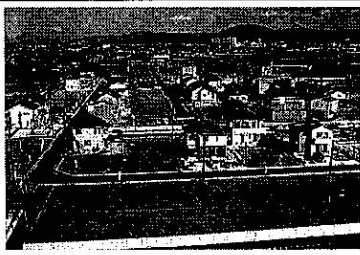
近江八幡市の「小舟木エコ村」で同社が販売する七十三区画（約二万二千平方メートル）がカーボンオフセットの対象。宅地の購入者にはCO₂ゼロの証明書を発行して環境配慮をアピールする。購入客に費用負担はなく、排出枠の費用は地球の芽が実費負担した。

特定非営利活動法人（NPO法人）のエコ村ネットワーク（同県彦根市）などが企画した環境配慮型宅地。各区画に家

庭菜園スペースを設けたり、雨水の活用、ゴミ堆肥（たいひ）化など持続可能な地域づくりをめざしている。

地球の芽は全区画の四分の一の造成・分譲を手掛けている。「温暖化ガスの排出ゼロ」を販売用不動産の付加価値として付けることにした。

日本カーボンオフセット（東京・港）からインド・タミルナド州の風力発電事業でつくられた排出枠を購入した。



CO₂ゼロとして販売する宅地「小舟木エコ村」（滋賀県近江八幡市）

「小舟木エコ村」は、

2009年3月19日 日経産業新聞